

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：市民参加（１）	
日付：11月 1日（土）曜日、セッション時間：13：15 ～ 14：45	
司会者名（所属）：矢嶋宏光（計量計画研究所）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当セッションでは、市民参加を通じて地域コミュニティにSC(ソーシャルキャピタル)が形成された事例が報告され、人的な関係性の形成や調整、共通利益の創出、コーディネーターの介在などが地域づくりや活性化の鍵となっていることが示唆された。 ・ SCの形成は全国の数多くの地域に共通する課題。主体間での共通的利益を見出す協調的・創造的な関係性の形成やそのプロセス、コーディネーターの機能、条件、能力、仕組みなど、SC形成の技術論が課題として残る。 ・ 市民参加におけるSC面からの捉え方やコーディネーターの役割は、新規の道路整備などで対立がある場合や、自発的な動機や危機意識がない場合など、少なくとも表面的には共通的利益が見いだせない場合にも適用できるか。 ・ 地域活性化の動機だけでなく、イベントやイニシエーター(起爆剤的人材)の存在などの「きっかけ」も重要な要素ではないか。
	<p>(発表番号22) 発表者名(所属)：金俊浩(東京理科大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への帰属意識の希薄な地域では、地域問題に対してコミットすることで新たな責任が生じることを避ける意識が働くことが、こうした地域における市民参加を限定的・消極的にしているのではないか。
	<p>(発表番号23) 発表者名(所属)：大橋幸子(国土技術政策総合研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通的利益を見出し共有することの前に、不利益やその偏在を地域でどう克服するかが重要ではないか。参加の範囲を広げ関係者を多様にすることは、共通利益を見出しにくくするというよりも、より大きな可能性や利益をもたらす効果がある。 ・ コーディネーターの存在以前に危機感が原動力に。人的つながりの生成過程も分かっておきたい。 ・ 人的つながりの創出そのものは、結果として投入される政策の成功とは違う。いつの何を成功とするかにより評価は分かれるが、事例では、人的つながりが形成されるまでは成功に至らなかった。
	<p>(発表番号24) 発表者名(所属)：辻喜彦(宮崎大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事例でのSC形成のポイントは、先ず行政側の危機感と熱意と楽しさにあった。また、市民の自発的な関わりが人的つながりをいっそう重層化し、また参加の楽しさを増した。 ・ インフラだけでなく、建築の質が街のストックにとって重要な要素。事例では面事業の後からそれに気付いたが、デザインの統制のために、ルールではなく、「作法」として、緩いコンセンサスを図った。 ・ 連携の強さや継続性もSCの重要な指標。事例ではインフラ整備が出発点だったが、人的ネットワークが重層的に発達し、地域の「底力」となった。今後は本来のTMOが行う「マネジメント」が必要。